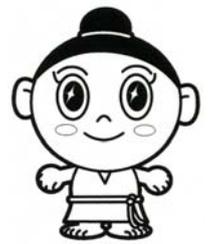




ひろしま考古学講座Ⅲ



—考古学からみた「しまのわ」大研究—

ひろちゃん

やよいちゃん

公益財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室では、“考古学からみた「しまのわ」大研究”をテーマに『ひろしま考古学講座Ⅲ』を開催します。

講座では、広島県と愛媛県の埋蔵文化財調査の最前線に立つ担当者が、瀬戸内海をめぐって関連する両県の遺跡や遺物から人々の交流、交易、文化について考えます。聴講は無料です。ぜひご来場ください。

会場：広島県立総合体育館 地下1階 中・大会議室

(広島市中区基町4番1号 電話：082-228-1111)

時間：13時30分～15時30分 (開場は13時～16時)

定員：100名 聴講料：無料

内容



まがたまくん

回	期 日	演 題	講 師
1	10月19日(日)	高地性集落と倭国大乱	山田 繁樹 (当教育事業団埋蔵文化財調査室)
2	11月2日(日)	弥生～古墳時代の土器からみた交流	梅木 謙一 (松山市埋蔵文化財センター)
3	11月23日(日)	瀬戸内からみた邪馬台国のありか	伊藤 実 (当教育事業団埋蔵文化財調査室)
4	11月30日(日)	いわゆる山陰系コシキ形土器からみた地域間交流	谷若 倫郎 (愛媛県教育委員会)
5	12月7日(日)	芸予の島々と中世の流通	柴田 圭子 (愛媛県埋蔵文化財センター)
6	12月23日(火祝)	発掘調査からみた中世の海城	尾崎 光伸 (当教育事業団埋蔵文化財調査室)

受講方法 講座申込：通回受講は、事前にお申込みください。〔申込締切：9月30日(月)〕

申込方法：電話・ファックス・Eメール等でお申込みください。

申 込 先：公益財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室

〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8-49

電話：082-295-5751 ファックス：082-291-3951

Eメール：maibun@harc.or.jp

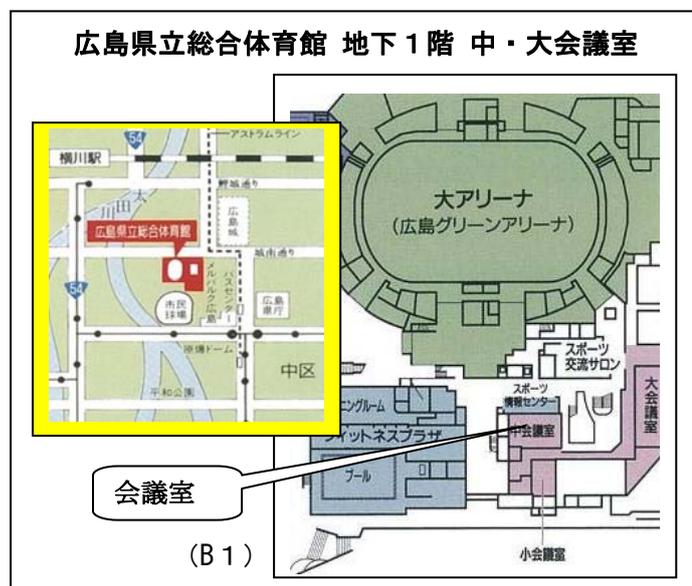
ホームページ：http://www.harc.or.jp (「遺跡探訪のへや」)

※各回単独受講は、申込は不要です。(定員超過の場合は、席が用意できない場合があります。)

会場のご案内



ドキちゃん



交通機関：市内電車「紙屋町西」下車5分
 バス「バスセンター」「紙屋町」下車5分
 アストラムライン「県庁前駅」下車5分
 駐車場：有料200台(30分220円)

【主催・お問合せ先】

公益財団法人広島県教育事業団

埋蔵文化財調査室

〒733-0036

広島市西区観音新町四丁目8-49

電話：082-295-5751

《 講座 の 概 要 》

第1回 (10月19日) 高地性集落と倭国大乱 —広島湾岸を中心に—

山田 繁樹

魏志倭人伝に記された、「倭国大乱」と関連付けられて評価されてきた高地性集落。現在はどうのような位置づけとなっているのか。

かつて、高地性集落が多い地域とされた広島湾岸。通常の集落遺跡との違いはどこにあるのか。特殊な遺物が出土しているのか。

最近の発掘調査成果とあわせて、ひろしまの高地性集落を再検討してみます。

第2回 (11月2日) 弥生～古墳時代の土器からみた交流 —広島と愛媛を行き交う—

梅木 謙一

現在、広島県と愛媛県は、尾道市—今治市間がしまなみ海道、広島市—松山市間は高速艇・フェリーによって、人やモノが行き交っています。その始まりは、いつからだったのでしょうか。そんな疑問に答えるべく、弥生～古墳時代の土器に焦点をあて、両県の土器の地域性や移動、交流の実態を紹介します。

第3回 (11月23日) 瀬戸内からみた邪馬台国のありか —邪馬台国論争！ひろしまは蚊帳の外か—

伊藤 実

古代国家成立史に大きく関わる謎の女王国。江戸時代からその所在地について、近畿と九州の綱引きが始まりました。

その論争の真ん中であって、ほとんど話題にならないのが中国地方、わけても広島です。

そこで視点を広島に置き、これまでの近畿説と九州説を中立の立場で考えてみます。

第4回 (11月30日) いわゆる山陰系“コシキ形土器” からみた地域間交流

谷若 倫郎

山陰系“コシキ形土器”は、弥生後期～古墳前期に中国地方はじめ西日本の集落で使われた筒抜けの用途のわからない謎の土器です。

近年では、朝鮮(韓)半島にも似た土器が見つかることから、彼の地との交流が論じられるなど、さらに謎は深まるばかりです。

講座では、この土器の謎解きに挑みます。

第5回 (12月7日) 芸予の島々と中世の流通 —海賊の遺跡を中心に—

柴田 圭子

現在、しまなみ海道が走る芸予諸島には、中世の海賊と関わる遺跡が数多く存在し、発掘調査によって実態が明らかになりつつあります。

講座では、特に出土した遺物を中心に、流通と海賊の関わりについて考えてみたいと思います。

第6回 (12月23日) 発掘調査からみた中世の海城 —広島県大崎上島町の葛城跡発掘調査から—

尾崎 光伸

大崎上島町の葛城跡(くずじょうあと)は、三方を海に囲まれた「海城」で、平成25年に行った発掘調査の結果、15世紀に営まれた城であることが明らかになりました。

今回は、葛城跡から新たに見えてきた中世の「海城」の様相について、考古学の観点から考えてみます。